

9月18日(月)

何 が 来 よ う と も

聖書朗読 詩篇 70 編

あなたを慕い求める人がみな、あなたにあつて楽しみ、喜びますように。あなたの救いを愛する人たちが、「神をあがめよう」と、いつも言いますように。

詩篇 70:4

数か月前、私は開発途上国の病院のベッドの上で自分を哀れんでいました。なぜなら、腎臓結石の激しい痛み苦しんでいるにもかかわらず、病院は痛み止めをくれなかったからです。その時、私が横たわっているベッドの近くにいた、壊疽が起きたために片足を切断し、今度はもう一つの足の切断を待っている初老の紳士が「しずけき河のきしべを」を歌い始めました。するとたちまち彼の美しいバリトンボイスに、10人ほどの他の男性患者の歌声が加わり、蒸し暑く汚い病棟が、苦痛を受け入れたうで神を賛美する美しく素晴らしい歌声で満たされました。

皆が覚えている歌詞を口ずさみ、私もその歌に参加しようとしたとき、歌は次の歌詞の部分に差し掛かりました。

どんな状況に置かれても、神は教えてくださる

全て安し、御神共にませば

※英語の原詞からの直訳

「アーメン」で歌を終えたとき、私は、この悲惨な状況を経験できたことを神に感謝しました。良い時も悪い時も愛する救い主「神をあがめましょう」。

讚美歌 520

祈り 親愛なる救いの神。肉体的な痛み、精神的な痛みに襲われているとき、あなた様をあがめることができますように。あなた様だけが私の希望であり、全てをあなた様に委ねなます。

イエス様の御名によって。アーメン。

ウィリアム・E・マックドナウ
カンボジア プノンペン

今日のカ

2017年9月18日～9月24日

翻訳 阿部やよい

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

9月19日(火)

私の住まいの岩

聖書朗読 詩篇 71:1~3

私の住まいの岩となり、強いとりでとなつて、私を救ってください。

詩篇 71:3

シダの杭、泥、石などを使って、私と弟は子ども時代に住んでいた家から15メートルほど離れている納屋から丘の間に要塞を建てました。私たちは想像するすべての敵から身を守るための隠れ家を作りました。いかなる攻撃に対しても負けない自信がありました。ピーナッツバター、クラッカー、そして古い軍用水筒の中に水を入れ、非常食としてその要塞に備えました。

誰もが安全で安心できる要塞があればと思っています。しかし、遅かれ早かれ、子どもころの遊びと同じように私たちが作った要塞は、望んでいるような安全と安心をもたらさないことを知るのでした。

しかし、私たちの要塞となり、守り主となるものがあります。学者たちは、ダビデはこの歌をエルサレムから、息子のアブサロムによって起こされた謀反から逃げているときに作った歌ではないかと考えています。もしそうならば、ダビデは多くを失いましたが、神への信仰は失っていませんでした。皆が望む守りと要塞について語ることで、ダビデはどれだけ彼が神を信じているかを表しました。

主を信じているのなら、私たちに、住む場所、安心できる場所、そして食料が用意されているのです。

讃美歌 第二編 28

祈り ああ、主よ。あなた様だけが与えることのできる要塞に感謝いたします。私たちを包み、敵の恐怖から救い出してくれるあなた様の愛に心から感謝いたします。

イエス様の御名によって。アーメン。

クリス・フリゼル

テキサス州 グランバリー

9月20日(水)

私の任務

聖書朗読 詩篇 71:5~18

私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

詩篇 90:10

私は鏡を見て、この皺の多い顔はいったい誰に似たのだろうかと考えました。私のこの肌は、祖母からではなく、両親から受け継いだものだと嘆きました。祖母の肌は、60歳の時よりも80歳の時のほうが滑らかでした。

私の年老いた外見や、忘れっぽくなる頭、緩慢な動き、常にあちらこちらが痛む体など、加齢による変化がなんだったのでしょうか？ 私が気にしなければいけないのは、日々イエス様に仕える心と、その方法です。

教会の若い宣教師は若い子たちに「イエス様に心から仕えなさい」と教えます。しかし、これは若い子に限ってのことでしょうか？ 私は年を重ねるにつれ、周りの人にイエス様をもっともっと知らせたいと思うようになりました。

スーパーで、レジ係や袋詰め係の人たちに笑顔で接し、彼らを名前で呼ぶことでイエス様を広めることだってできるのです。彼らの胸についている名札の名前がこう叫んでいるのに気が付きませんか？ 「私を見て！ 私はちゃんと名前がある一人の人間なの！」これに気が付くたび、私は彼らに笑顔で接します。彼らを驚かせてしまうこともあります。

そうです！ 私たちは年をとります。そしてできることが年々少なくなってきました。それでもなお、私たちはイエス様に心から仕えることはできるのです。

讃美歌 393

祈り 親愛なる主、我が救い主。日々の生活をお導きくださり感謝いたします。あなた様に仕えることであなた様に喜んでいただけるようお助けください。御子の御名によって。アーメン。

ラニータ・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州 フォートトーマス

9月21日（木）

偶 像 は 無 意 味

聖書朗読 詩篇 115 : 1~8

わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。

イザヤ書 46 : 9

イエス様の時代に、アテネの神殿を訪れていたとしたら、絶え間なく続く動物の生贄の儀式や異教の礼拝を見たことでしょうか。しかし、その先には「女神アテナ」が座っているだけでした。偶像は何もできない本質的に無意味なものです。

現代の偶像についても同じことが言えます。忙しい、忙しい、忙しい。出世の階段を上るため、見栄を張るために何かを買ったりしたり、良い親と思われたいために子どもにプレッシャーを与えるなどで、とにかく私たちは忙しいです。ドラッグのリハビリカウンセラーは、ドラッグやアルコールによって引き起こされている問題は全体の15%で、残りの85パーセントは、「私」自分本位に起因するものであると言います。心の痛みやプレッシャーは実は自身がコントロールしているのです。

聖書では、偶像を作り、信仰している人々はその偶像のようになるという真実が述べられています。どんなに必死に努力をしても、それはただの幻想で、永遠なものは何もありません。

神を、そして神の御心を探し求める生涯の旅のなかでのみ、私たちは満足することができるのです。神は偶像ではなく、そして、ただ遠くから見ている御方ではないことを私たちは知ることでしょう。それどころか、神は愛にあふれ、誠実に私たちを見守り、神が私たちに与えてくださった目的と運命のために神の御計画を実行してください。私たちの心は満たされる上に、それは、神の栄光のためとなるのです。

讃美歌 第二編 55

祈り 親愛なる主。自分のために行動し、現代の偶像を追い求めていることを告白し、悔い改めます。私をお赦しください。そしてあなた様のやり方を教えてください。私の心と魂と強さ全てをお捧げして、どのようにしたらあなた様を愛することができるかを学んでいくことを約束します。

イエス様の御名によって。アーメン。

ブリッジ・A・ネイマン
ネブラスカ州 ヨーク

9月22日（金）

神 の う ち に 成 長

聖書朗読 詩篇 119 : 33~40

求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。 マタイ 7 : 7

日々の暮らしの中で、神のみことばはあなたにとってどれくらい重要なものですか？ みことばを心から愛し、みことばによって導かれたいと思っていますか？ 神の子どもであるのなら、神のうちに成長したいとの思いは絶えることはありません。

教える、与える、導く、立ち返る、確信する。これらのことすべては、ダビデが心から願ったものでした。ダビデは主との関係をもっともっと近くしたいと望みました。ダビデは、彼に何が必要なのか、そしてそれを備えるためには神に何を願うべきかを知っていました。

子どもが初めて補助輪無しで自転車に乗る練習をするとき、父親は子どもが自力で自転車に乗れるようになるまで、自転車を支えながら一緒に走ります。そんな時、子どもの口から発せられる言葉は「お父さん、ちゃんと持っててよ。絶対に離さないでよ！ 押して！ 助けて〜！」と、どんどん変わっていきます。

私たちのお父様も、私たちを愛してくださっているからこそ、いつも私たちの横にいて、支えながら走ってくださっています。お父様の望みは、私たちの幸せです。お父様は日々私たちがお父様を探し求めるのを待っておられます。お父様は私たちが扉をたたき音を聞いておられ、私たちが持てる以上の祝福をいつでも注ぐ準備しておられます。お父様は、御姿を、強さを私たちに表され、そして約束を守ってください。

讃美歌 324

祈り 聖なるお父様。私は成長したいのです。そして、私にはあなた様の助けが必要なのです。私の心はあなた様をもっと知りたいと思っています。私はみことばを見て、あなた様がそこにおられることを知ります。感謝いたします。イエス様の御名によって。アーメン。

キャロル・ロジス
コロラド州 プエブロ

9月23日 (土)

不当な扱いを受けた？ 祈りましょう

聖書朗読 詩篇 120 編

苦しみのうちに、私が主に呼ばわると、主は私に答えられた。主よ。私を偽りのくちびる、欺きの舌から、救い出してください。 詩篇 120 : 1~2

この詩をダビデが書いたのは、ダビデについて嘘を語っている人々を相手にしなければいけなかったときであると多くの人は考えています。自身の行いや、地位について嘘を言っている人がいたときの私たちの反応は、「言い返す」のが普通でしょう。嘘を正したい。そのために言い返したいと思ってしまいます。

しかし、まず最初にすべきことは、「主を求めろ」ことだとダビデは詩篇で言っています。不当な扱いを受けていると感じたとき、祈りましょう！ 祈ることで、神は私たちに平安を与えてくださり、自身でやり返すことなく、嘘を正す道を示してください。これを自分で戦おうとすると、だいたいが良い結果には終わりません。

次にすべきことは、神は私たちが耐えている不当な扱いに対する報酬をお与えくださるという希望の中、平安でいることです。

最後に、平和を望まない人々に囲まれているときですらも、私たちは心穏やかに暮らすべきです。数年前、雑誌に自身についてネガティブな記事を書いた記者に会いに行く初老の牧師に同行したことがありました。私はその牧師に何をするつもりなのかと尋ねました。彼はただ言いました。「別に何するつもりはありません。真実は明らかになるでしょうから」。私は彼の清い態度が忘れられません。これはまさに詩編が私たちにすべきだと教えていることです。

讃美歌 295

祈り 親愛なる主。困難に見舞われたとき、あなた様を信じることができますように。あなた様は私たちが忘れることはありません。ですから私もあなた様を忘れることないようお助けください。

イエス・キリストを通して。アーメン。

スタッフオード・ノース
オクラホマ州 エドモンド

9月24日(日)

夜明けを待つ

聖書朗読 詩篇 130 編

私のたましいは、夜回りが夜明けを待つのにまさり、まことに、夜回りが夜明けを待つのにまさって、主を待ちます。 詩篇 130 : 6

漆黒の空の下、私は固い岩場の上で眠れぬ夜を過ごしていました。気温は思っていたより下がってきたので、寝袋の中で震えながら私は、夜が去り、地平線から太陽が昇ってくるのをただただ待ちました。

人生の中でも、私たちは寒く、暗い夜が明けるのを待っているときがあります。痛みが去るのを願いながら居心地の悪い場所に留まっているのです。それは、病気、またはうまくいかない結婚生活、または経済的に苦しい状況なのかもしれません。どんな痛みが私たちに苦しめようとも、私たちは暗闇が去り、御子が現れるのを待ちます。

待つことに疲れたときは、希望を求めて神のみことばを求めましょう。哀歌 3:25 には『主はいつくしみ深い。主を待つ望む者、主を求めろたましいに』とあります。ミカ書 7:7 では『私は主を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の願いを聞いてくださる。』と私たちに励まします。詩篇 27:14 では、『雄々しくあれ。心を尽くせよ。待ち望め。主を。』と私たちに導きます。

ですから、生活に追われていても、待つことをあきらめてはいけません。みことばを通して神を強く探し求めましょう。そして待ちましょう。神はあなたのうめきの声を聞いてくださいます。朝は訪れます。そして神の愛のぬくもりが、あなたの疲れ、弱った心を強めてくださいます。

讃美歌 第二編 48

祈り 親愛なる主。人生でうまくいっていないときほど、待つことが困難になることがあります。主を求め、忍耐をもって待つことができますように。みことばを胸に待つことができますように。あなた様は我が救い、我が盾であることを私たちは知っています。

イエス様の御名によって。アーメン。

シェリー・M・ベイカー
インディアナ州 ラポート